

教育・心理

田浦武雄編

教育の原理

[品切] A5判・348頁・2,000円

教育とは、文化・社会の動態と人間個体の成長・発達との接する領域において、未来の創出を助ける営為であるという観点から、教育の歴史的・文化的基礎、学校教育の現実と課題、学校の経営・制度・行政の問題の検討を踏まえて、教育の原理を探究。

[1983] 978-4-930689-03-0

甲斐進一著

ブラメルド教育哲学の研究

[品切] A5判・342頁・4,800円

実存的ヒューマンイズムの視点を重んずる教育を構想し、学校教育を文化改造の担い手として考えたセオドア・ブラメルド。本書は、「教育による文化改造とは何か」「どこまで教育は文化改造に貢献できるか、また貢献すべきか」に焦点をあて、ブラメルド教育哲学の構造と意義を究明する。

[1984] 978-4-930689-17-7

潮木守一著

京都帝國大學の挑戦

—帝国大史のひとこま—

[品切] 四六判・218頁・2,000円

明治30年、当時「拝官主義」にとりつかれ、大学あるいは大学教授という役割を自らの手で定義しえなっていた東大への挑戦者として、京都帝国大学は登場した。本書は、あるべき大学像を求めて創設された京都帝国大学の教育改革と挫折の8年間のドラマをドキュメンタルに描く。

[1984] 978-4-930689-18-4

村上英治監修 池田豊應／赤塚大樹／細野純子／後藤秀爾編

生きること・かかわること

—一人間への臨床心理学的接近—

[品切] A5判・366頁・3,500円

本書は、16の多様な領域における臨床心理学実践の実例報告に基づいて、事例の病理学的解明や治療論的検討を行うとともに、対象の特定の「生」とそれにかかわる心理臨床家自身のありよう、内面的な歩みを記述し、臨床心理学における基本的人間接近のあり方を示す。

[1984] 978-4-930689-19-1

G. ラッシュ著 内田良男監訳

心理テストの確率モデル

[品切] A5判・270頁・3,500円

集団の中の単なる相対的順位にすぎない偏差値から脱却して、個人の能力や性格を絶対的な「ものさし」によって測るための計量心理学的モデルの構想と応用。デンマークの数学者の手になる本書は、行動科学に数学モデルを応用して、テストを本当の意味で客観的なものにする。

[1985] 978-4-930689-35-1

堀内 守編

教育哲学の諸問題

[品切] A5判・370頁・4,300円

さまざまな教育問題が新聞紙上ににぎわしている今日、教育哲学の応えるべき課題は多い。本書は、これらの課題に応えるべく、アクチュアルな問題を取りあげ、教育哲学の根本を究明し、教育の理論と実践に新しい途を示す。田浦武雄・名古屋大学教授・退官記念論文集。

[1986] 978-4-930689-44-3

横瀬善正著

形の心理学

〔品切〕四六判・164頁・2,200円

本書は、視覚心理学の分野においていはやく「形」の問題に取組み心理的ポテンシャル場の理論を提出した著者が、カモフラージュの立案や交通標識の改作、文字パターンなど実際的な問題を検討する。従来十分な扱いがなされていない「形」にアプローチした独創的な成果。

〔1986〕978-4-930689-48-1

内山道明著

心理学の窓から

〔品切〕四六判・194頁・1,800円

本書は、「具体的人間生活を対象とした心理学」を標榜する著者が、新聞・雑誌に寄せた随想・評論をまとめたものである。専門分野を超えて、現象の基底にある問題の特性を鋭く見透している。全体を三部に分けⅠ部が社会時評、Ⅱ部が家庭心理学等、Ⅲ部が研究雑感となる。

〔1988〕978-4-930689-86-3

久世敏雄編

教育の心理

〔品切〕A5判・304頁・2,000円

(1) 教育過程における教育的関係を研究する心理学であること。(2) 全体としての人間を生涯発達という視点から捉える実践的性格を担った心理学であることの二点を中心に、単著では出来ない多くの教育心理学教室関係者による幅広い視点から教育心理学的知見が豊富に盛りこまれた教科書。

〔1988〕978-4-930689-87-0

田浦武雄／潮木守一／日比裕編

現代教育の原理

〔品切〕A5判・296頁・2,200円

教育職員免許法の大改正に伴う旧著「教育の原理」の全面的改訂版。近年の教育現場の新しい動向を踏まえて、一層広く深く教育を考察する。〔目次〕第Ⅰ部「教育の本質と目標」、第Ⅱ部「教育と社会」、第Ⅲ部「教育の内容・方法および技術」。他に教育関係法規、戦後教育史年表を付す。

〔1990〕978-4-8158-0143-4

服部祥子／原田正文著

日本生命財団出版助成図書

乳幼児の心身発達と環境

—大阪レポートと精神医学的視点—

B5判・350頁・5,000円

本書は、一定地域の同年出生の乳幼児二千名の発達過程を環境とのかかわりで6年にわたり追跡調査した世界でも類をみない貴重な子ども白書。社会の急激な変化にゆれる現代日本の子どもの実態を踏まえて、子どもの健全な心身発達のために、今大人は何をなすべきかを提言する。

〔1991〕978-4-8158-0153-3

江藤恭二監修 篠田弘／鈴木正幸編

教育近代化の諸相

〔品切〕A5判・440頁・8,000円

中世から近代へ、ヨーロッパ・アメリカ・日本の近代化の過程で教育の理念・制度・実践はどのように展開されていったのか。現代社会が当面する教育の課題をその近代化の諸相にさぐり、Ⅰ西洋教育史、Ⅱ日本教育史、Ⅲ教育思想を柱に様々な角度から論じる。

〔1992〕978-4-8158-0176-2

田畑治／蔭山英順／小嶋秀夫編

現代人の心の健康

—ライフサイクルの視点から—

〔品切〕A5判・288頁・2,300円

従来ともすれば「心の健康」の阻害要因や状態のみが取り上げられることが多かったのにたいし、本書は、現代人の生涯にわたる成長、発達を縦軸に、また生活の場や空間——家庭・学校・職場・地域社会および国際間——を横軸に、「心の健康」を促進・開発していく側面をも積極的に展開する。

〔1992〕978-4-8158-0186-1

芋阪良二／中溝幸夫／古賀一男編

眼球運動の実験心理学

A5判・346頁・6,500円

ビジュアル・サイエンス史上の巨人、ヘルムホルツとヘリングが眼球運動について論争してから120年。その間、技術革新に支えられて発展してきた眼球運動研究の歴史と最新の成果を収め、眼球はなぜ動くのか、視線の動きは何を意味するのかを視覚との関わりで解明するわが国初の成書。

[1993] 978-4-8158-0204-2

田浦武雄編

アメリカ教育の文化的構造

A5判・190頁・2,200円

第I部で教育・社会・文化の関連を捉え、教育の文化的構造、新しい資料に基づいた戦時下日系人強制収容をめぐるアメリカ文化の光と影を検討し、第II部でアメリカ教育の動向を捉え、教育における平等と卓越性、改造主義、文化的リテラシーをめぐる問題構造等を検討した。

[1994] 978-4-8158-0239-4

早川 操著

デューイの探究教育哲学

—相互成長をめざす人間形成論再考—

【RA叢書】A5判・306頁・5,500円

アメリカの哲学者であり教育学者であるデューイの人間形成理論を「探究」という理念を中心に考察した。教育はたえず「相互成長」をめざすという前提のもと、近年話題となっている「習慣・コミュニケーション行為・反省的教授」等の諸テーマにそって考察・理論展開する。

[2022 (1994)] 978-4-8158-1072-6

馬越 徹著

韓国近代大学の成立と展開

—大学モデルの伝播研究—

【RA叢書】A5判・326頁・6,300円

本書は、19世紀末科举制度の崩壊に伴う儒教的大学観の崩壊から日本植民地統治下における「日本・西洋混合型」、戦後の「アメリカ型」をへて国力の増大による「独自モデル」が展開されるまでの韓国高等教育の歴史を、大学モデルの受容と変容の観点から比較史的・実証的に明らかにする。

[2022 (1995)] 978-4-8158-1073-3

田中英夫著

御雇外国人ローレツと医学教育

—愛知県公立医学学校における新ウィーン学派医学の受容—

A5判・300頁・5,500円

明治時代、名古屋大学の前身校の御雇教師であったアルブレヒト・フォン・ローレツ。その出自から来日、帰国までの足跡を丹念に追い、ドイツ医学の教育体系をどのように導入したのかを解明する。併せて日本の衛生行政への貢献や、近代的医学思想を初めてわが国に紹介した過程を提示。

[1995] 978-4-8158-0260-8

フィリップ・ワロン他著 加藤義信／日下正一訳

子どもの絵の心理学

A5判・278頁・2,900円

子どもが描く絵には、どんな心の世界が隠されているのか？ フランス語圏の伝統ある「子どもの絵」研究を踏まえ、発達心理学によるアプローチを中心に、臨床的観点や比較文化的視点の導入、さらにはコンピュータを利用した描画や発達水準の評価など、研究の現況をバランスよく鳥瞰する。

[1995] 978-4-8158-0261-5

広瀬幸雄著

環境と消費の社会心理学

—共益と私益のジレンマ—

A5判・250頁・2,900円

本書は、マクロな環境問題とミクロな消費行動に関する人々の意識と行動を、環境保全という共益と消費・廃棄という私益との社会的ジレンマの枠組みから捉え、そのジレンマ解決の方途を具体的事例と実験を踏まえて解明する。資源環境問題に対するわが国で初めての社会心理学的研究。

[1995] 978-4-8158-0268-4

松野 修著

近代日本の公民教育

—教科書の中の自由・法・競争—

A5判・376頁・5,700円

近代市民社会の原理や機構はどのように教えられてきたのか。明治以降の「自然権論を基調とする」公民教育の営みとその逸脱・変容のあり様を丹念に描き出し、以て「天皇制家族国家観に立脚する」公民教育のもう一つの流れとの相補的構造を明らかにした労作。教育の現在への示唆に富む。

〔1997〕978-4-8158-0332-2

服部祥子／山田富美雄編 日本生命財団出版助成図書

阪神・淡路大震災と子どもの心身

—災害・トラウマ・ストレス—

B5判・326頁・4,500円

震災が子どもの心の奥底に残したものはなにか？—約三千人の子どもたちが示したストレス反応を、精神医学・心理学・看護学の専門家が独自の調査測定・評価によって多角的に分析し、震災後のケア及びストレスマネジメント教育をどのようにしていくのか、その指針と方法を提示する。

〔1999〕978-4-8158-0364-3

広田照幸著

教育言説の歴史社会学

四六判・408頁・3,800円

「教育」の氾濫は何を物語っているのか？ 少年犯罪、校則、親子関係、個性、能力などの事例をもとに、〈教育的なるもの〉が生み出される過程を鮮やかに描き出すとともに、教育言説の固有の正当化形式が見えなくさせていた歴史的・社会的文脈を浮彫りにし、現代教育論の再考を促す労作。

〔2001〕978-4-8158-0396-4

梶田正巳編

学校教育の心理学

A5判・288頁・2,800円

変貌著しい学校教育の現場に焦点をあわせ、学力や心の問題への対応、総合学習、コンピュータ教育の拡大まで、多様化する教育課題への実践的対応を詳述した待望のテキスト。教育心理の初学者、教師に最適な具体的かつバランスのよい解説で、子どもの生きる力を育てる支援を考える。

〔2002〕978-4-8158-0437-4

成田善弘著

贈り物の心理学

四六判・236頁・2,800円

人はなぜ贈り物をするのか？ 日常生活の場面から神話や昔話の贈り物まで、さらには精神療法の過程で交わされるプレゼントから「命の贈り物」と呼ばれる臓器移植まで、人間社会のさまざまな局面で登場する贈り物の意味について幅広く考察を加え、その背後に働く心の世界を解き明かす。

〔2003〕978-4-8158-0471-8

今津孝次郎／馬越徹／早川操編

新しい教育の原理

—変動する時代の人間・社会・文化—

A5判・280頁・2,800円

社会の変化、教育の役割、国際的視野の三つの論点を軸に、教育原理の新しいスタンダードを提示。最新の知見に基づく教育理論や制度変化などの解説により、基礎的な知識・思考力を養うとともに、教育の領域を人間・社会・文化との相互連関のもとにおき直し、そのあるべき姿を問い直す。

〔2005〕978-4-8158-0504-3

原田正文著

日本生命財団出版助成図書

子育ての変貌と次世代育成支援

—兵庫レポートにみる子育て現場と子ども虐待予防—

B5判・386頁・5,600円

世界的にも稀な大規模で信頼性の高い子育て実態調査の結果を、過去の調査と比較しつつ丹念に分析。ここ二十数年間での子育ての急速な変貌とその課題を明らかにする。精神科思春期臨床の視点やストレス理論、心の発達理論なども踏まえ、母親に必要な支援および子ども虐待の予防策を探る。

〔2006〕978-4-8158-0543-2

児玉善仁著

イタリアの中世大学

—その成立と変容—

A5判・470頁・7,600円

大学はいかにして生まれたのか。ヨーロッパ最古のボローニャ大学と医学で栄えたパドヴァ大学を中心に、学生を主体としたイタリア中世大学の特質を明らかにするとともに、学位や学部、都市との関係から地方性と普遍性の問題に迫り、近代への過程を見通す。制度史と社会史を統合した力作。
〔2007〕978-4-8158-0576-0

江藤恭二監修 篠田弘／鈴木正幸／加藤詔士／吉川卓治編

新版 子どもの教育の歴史

—その生活と社会背景をみつめて—

A5判・326頁・2,800円

偉大な教育思想家や教育制度の変遷ではなく、子どもの実態に焦点をあて、近代への移行期から現代に至る教育の歴史を、近年の社会史の成果も踏まえて解説する。外国編と日本編に分けて記述し、グローバル化の勢いも著しく変化する現在の教育の姿も盛り込んだ好評テキストの新版。
〔2008〕978-4-8158-0586-9

橋本伸也著

帝国・身分・学校

—帝制期ロシアにおける教育の社会文化史—

A5判・528頁・9,000円

教育史から浮かび上がるロシア帝国——。西欧的学知の受容過程を俯瞰し、「教育の身分制原理」とその揺らぎをエリート教育に即して読み解くとともに、辺境地域で展開された教育政策をたどることで、ロシア帝国固有の教育システムを解明、教育の社会文化史の可能性を問いかけた渾身作。
〔2010〕978-4-8158-0627-9

吉川卓治著

公立大学の誕生

—近代日本の大学と地域—

A5判・408頁・7,600円

大学と地域の関係はいかにあるべきか。初の公立大学である大阪医科大学の学長、佐多愛彦の大学論に着目し、公立大学理念の形成過程と内実を解明。大学令の成立経緯を考察するとともに、各地での公立大学設立への動きを周到にたどり、今日活況を呈する公立大学を根拠から見つめ直す。
〔2010〕978-4-8158-0641-5

広田照幸／古賀正義／伊藤茂樹編

現代日本の少年院教育

—質的調査を通して—

A5判・396頁・5,600円

少年院ではどのような教育が行われ、少年の更生にどのように役立っているのか？現場で工夫や改善を重ねることで独自の発展をとげてきた日本の少年院での教育実践を、本格的なフィールド調査を通して、教育学・社会学の視点から多面的に分析、従来のイメージを一新する画期的な研究。
〔2012〕978-4-8158-0705-4

速水敏彦編

教育と学びの心理学

—基礎力のある教師になるために—

A5判・330頁・2,800円

ときどきの政策や潮流に左右されない、教育心理のもっともベーシックな知識とは何か。「教える一学ぶ」関係の心理を丁寧に解説し、基礎の確実なマスターを通じて応用力を養うことを目指す。教員・子どもをめぐる環境変化を超えて、その発達支援を支える知恵の詰まった信頼のテキスト。
〔2013〕978-4-8158-0729-0

近藤孝弘編

統合ヨーロッパの市民性教育

A5判・312頁・5,400円

統合の進展とともに動揺する欧州。移民は増大し、ポスト国民国家の社会像も今なお明確ではない。排外主義や「帝国」化を回避しつつ、国境を超える民主主義をどのように発展させていくのか。シティズンシップ教育に託された困難な課題への挑戦と、歴史を背負った多様な姿を明らかにする。
〔2013〕978-4-8158-0740-5

阿曾沼明裕著

アメリカ研究大学の大学院

—多様性の基盤を探る—

A5判・496頁・5,600円

研究者・専門職双方の輩出で世界をリードするアメリカの高等教育は、どのように支えられているのか。大学院を動かす仕組みとお金の実態を、インタビュー調査や文献から見通しよく整理。「神話」を排し、その多様性に富んだあり方を初めてトータルに解き明かす待望の書。

〔2014〕978-4-8158-0761-0

すぎむらなおみ著

養護教諭の社会学

—学校文化・ジェンダー・同化—

A5判・366頁・5,500円

問題を抱えた子どもたちの避難所として、がんばる「保健の先生」。それにしてもなぜこんなに苦しいのか。性暴力にあった生徒の問題に向き合わせるをえなくなった著者が、養護教諭の「無力さ」の由来を徹底的に探究した果てに、たどりついた答えとは。あり方の再定義へといたる希望の書。

〔2014〕978-4-8158-0771-9

早川操／伊藤彰浩編

教育と学びの原理

—変動する社会と向き合うために—

A5判・256頁・2,700円

グローバル社会を生きるための課題対応力を育み、子どもたちの学びを生み出す教育の新たな姿とは。教育にできることを見きわめ、「教える一学ぶ」関係の可能性を、学びを中心にとらえ直してやさしく解説。社会や制度を知り、子どもとよりよく向き合うための、叡智あふれるテキスト。

〔2015〕978-4-8158-0812-9

三好信浩著

日本の産業教育

—歴史からの展望—

A5判・396頁・5,500円

「実践的で役に立つ」教育を、歴史の中から問い直す——。西洋に範を取ることから始まった近代産業教育の歩みを、女子教育や地方の観点も含め一望。とりわけ教育家の思想や実践に着目し、学校の果たしてきた役割に光を当てる。現代の産業社会が抱える教育課題の解決のために必読の書。

〔2016〕978-4-8158-0840-2

天野郁夫著

新制大学の誕生 [上]

—大衆高等教育への道—

A5判・372頁・3,600円

終戦後の混乱の中、200校以上が慌ただしく発足した新制大学。それは実に大転換だった。文部省やGHQ、諸学校関係者が議論・交渉し、戦前以来の改革構想やアメリカ式の高等教育モデルの間で揺れながら出発に漕ぎつけた困難な過程をたどり、日本のマス高等教育の原点を明らかにする。

〔2016〕978-4-8158-0844-0

天野郁夫著

新制大学の誕生 [下]

—大衆高等教育への道—

A5判・414頁・3,600円

旧帝大から師範学校、専門学校まで、「遺産」の多寡も教育機関としての質も異なる学校に一齐に実施された終戦後の「大学」化。不完全さを残しつつも実現された改革は、何を成し、何を成しそこねたのか。現代のマス高等教育の礎をなした転換点に立ち戻り、問題の所在を歴史から問い直す。

〔2016〕978-4-8158-0845-7

今津孝次郎著

新版 変動社会の教師教育

A5判・368頁・5,400円

繰り返される制度改革を越えて——。変化の激しい世界での教師の役割は「やわらかい学校」の実現として捉えられる。同僚と協働し学校全体の改善へと向かう実践や、その省察を通じた能力向上を軸とする、ゆるぎない視座から日本の現実を見つめ、多元的な「教師教育」を基礎づけた決定版。

〔2017〕978-4-8158-0877-8

近藤孝弘著

政治教育の模索

—オーストリアの経験から—

A5判・232頁・4,100円

民主主義の拡大を支え劣化を押しとどめるために、世界各国で注目される「政治教育」。16歳選挙権を導入したオーストリアの、ナショナリズムに動員された過去から、現在のコンピテンシー重視の教育や「民主主義工房」の挑戦まで、政治教育の変容と深化を跡づける。

〔2018〕978-4-8158-0913-3

天野郁夫著

新制大学の時代

—日本の高等教育像の模索—

A5判・558頁・4,500円

戦前からの試みとGHQ占領下の大転換をへて到達した高等教育の新時代。だが、それは新たな模索の始まりだった。様々なアクターによる議論と交渉を通して、何が選ばれ、どのような問題が遺されたのか。現在の大学改革につながる課題の由来と制度の構造を歴史的に浮き彫りにする。

〔2019〕978-4-8158-0956-0

広田照幸著

大学論を組み替える

—新たな議論のために—

四六判・320頁・2,700円

なしくずしの政策追従に陥る大学。なぜこんなことになっているのか。大学に関する価値や理念や規範をめぐる議論を避けることなく、教育の質、評価、学問の自由など具体的なトピックを通して、よい改革論とダメな改革論を区別し、大学が公共的な役割を果たし続けられる道を拓く。

〔2019〕978-4-8158-0967-6

広田照幸編

歴史としての日教組 [上]

—結成と模索—

A5判・336頁・3,800円

過剰な期待と批判の狭間で、実像とかけ離れたイメージが作られてきた日教組。膨大な非公開史料や関係者へのインタビューに基づき、学術的にその歴史を徹底検証——。上巻では、戦後の労働運動での立ち位置から、独自の教育理念や「教師の倫理綱領」の作成まで、初期の模索を跡づける。

〔2020〕978-4-8158-0972-0

広田照幸編

歴史としての日教組 [下]

—混迷と和解—

A5判・326頁・3,800円

現代日本の歴史において重要な役割を果たしてきた日教組。膨大な非公開史料や関係者へのインタビューに基づき、リアルな日教組像を明らかにする学術的研究——。下巻では、1980年代の労働戦線の再編から、教育運動の転換、文部省との「歴史的和解」まで、新たな路線選択の時代に迫る。

〔2020〕978-4-8158-0973-7

伊藤彰浩著

戦時期日本の私立大学

—成長と苦難—

A5判・338頁・6,300円

それは成長の時代でもあった。——高まる進学熱のなか、国公立を超えてマジョリティを占めるようになった私立大学。一方的な統制だけではなく政府との関係もふくめ、そのたくましい経営行動を軸に当時の実態に迫り、長期的な視野のもとで、多様な私学の全体像を初めて捉えた労作。

〔2021〕978-4-8158-1024-5

松下晴彦／伊藤彰浩／服部美奈編

教育原理を組みなおす

—変革の時代をこえて—

A5判・336頁・2,700円

環境変動、グローバル化、感染症など、ますます加速する変化と、それに伴う分断のなかで、教育はいかなる役割を果たせるのか？ 変革にただ即応するだけではない粘り強い思考力を養い、より良い教育をめざす問いを手放さない教師になるための、最良の教育学入門。

〔2021〕978-4-8158-1045-0

中谷素之／平石賢二／高井次郎編

学び・育ち・支えの心理学

—これからの教育と社会のために—

A5判・304頁・2,700円

予測困難な時代、激変する教育現場において、心理学にできることは何か。教職や公認心理師をめざす人に役立つベーシックな知識のみならず、マルチタスクや非認知能力、LGBTといった注目を集める最新のトピックも丁寧に解説、教育心理の根本が身につく充実のテキスト。

[2024] 978-4-8158-1151-8

E. M. フィリップス／C. G. ジョンソン著 角谷快彦訳

博士号のとり方 [第7版]

—学生と指導教員のための実践ハンドブッカー—

A5判・400頁・2,700円

技術マニュアルを超えて、博士号取得をその考え方から解説。研究計画の作成から教師とのコミュニケーションまで、だれもが経験する実践的課題への対応をわかりやすく描き、学生・教員から絶大な支持を集める世界的ベストセラー。コロナ禍以降の状況にあわせ内容を大幅アップデート。

[2025] 978-4-8158-1194-5
